

平成 30 年度 法人事業報告書

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

【社会福祉法人 長尾福祉会 法人理念】

障害をもっているもっていない男も女も
「生まれておめでとう・成長しておめでとう・長生きしておめでとう」
といえる社会づくりを目指します

第1章 法人全体事業総括

平成30年度は、地域共生型サービスの推進、地域包括ケアシステムの推進、自立支援、質の高い介護・支援サービスの実現等を目標に事業を行った。しかしながら、地域住民の生活スタイル及び就労環境の多様化により、家庭・地域の福祉力が変化しているなかでは、まだまだ地域との連携や多様なサービスの提供は十分にできていないのが現状である。これからの地域福祉を担う人材の確保と共に、当法人の目標である、地域機福祉の中核拠点としての機能をさらに発展強化していかなければならない。

施設整備事業関係では、ここ10年間における施設整備推進計画の最後となる、地元さぬき市の認定こども園の開園準備が整った。

第2章 法人本部事業報告

法人事業の運営管理

法人本部では、認定こども園をはじめとする新規事業の開設に対する支援と、法人内各種行事への本部職員の派遣を行った。また、昨年度から取り組んでいる各文書の統一、規程等の更新を行った。

理事会・評議員会の運営

理事会の開催

【第1回】

平成30年6月4日(月) のぞみ園ホール

議案第1号 平成29年度 事業報告について

議案第2号 平成29年度 収支決算の承認について

議案第3号 長尾認定こども園(仮称)の名称について

議案第4号 定時評議員会の招集事項について

【第2回】

平成30年11月2日(金) ハーティヴィラ亀鶴 相談室

議案第1号 定款の変更に伴う理事会による評議員会の招集事項の決議について

議案第2号 平成30年度 収支補正予算(第1号)について

議案第3号 認定こども園長尾学舎の資金計画及び担保提供について

議案第4号 認定こども園長尾学舎の事業進捗状況について

議案第5号 認定こども園長尾学舎の園長について

- 議案第6号 認定こども園長尾学舎の遺跡調査について
議案第7号 グループホームのぞみ、のぞみホーム1号館、のぞみ児童デイサービス事業所に対する香川県の実地指導の結果について
議案第8号 のぞみ園に対する香川県及びさぬき市の実地指導の結果について
議案第9号 社会福祉法人長尾福祉会に対する香川県の指導監査の結果について
議案第10号 役員報酬規程の一部改正について
議案第11号 経理規程の一部改正について
議案第12号 資金運用規程の一部改正について

【第3回】

平成 31 年3月5日(火) ハーティヴィラ亀鶴 相談室

- 議案第1号 平成 30 年度 収支補正予算(第2号)について
議案第2号 平成 31 年度 事業計画(案)について
議案第3号 平成 31 年度 収支予算(案)について
議案第4号 社会福祉法人長尾福祉会の定款の変更に伴う理事会による評議員会の招集事項の決議について
議案第5号 資金運用責任者の任命について
議案第6号 平成 31 年度 資金運用計画について
議案第7号 園長(管理者)の選任及び解任について
議案第8号 役員報酬規程の改正について
議案第9号 理事長の政治活動及び兼職について

報告事項

- 1 のぞみ園及びゆたか荘の空調設備工事の進捗状況について
- 2 認定こども園長尾学舎の落成式について
- 3 育児・介護休業等に関する規程の改正について
- 4 平成 31 年度からの年次有給休暇の翌年度繰越の解釈の変更について
- 5 平成 31 年1月までの月次の資金運用状況について

評議員会の開催

【第1回】

平成 30 年6月 29 日(金) ハーティヴィラ亀鶴 相談室

- 議案第1号 平成 29 年度 事業報告について
議案第2号 平成 29 年度 収支決算の承認について
議案第3号 長尾認定こども園(仮称)の名称について

【第2回】

平成 30 年 11 月 27 日(火) ハーティヴィラ亀鶴 相談室

- 議案第1号 社会福祉法人長尾福祉会の定款の変更について
議案第2号 役員報酬規程の一部改正について

議案第3号 認定こども園長尾学舎の資金計画及び担保提供について

【第3回】

平成 31 年3月 22 日(金) ハーティヴィラ亀鶴 相談室

議案第1号 社会福祉法人長尾福祉会の定款の変更について

議案第2号 役員報酬規程の一部改正について

施設整備・補修事業の導入支援

- ・ のぞみ園（補助事業）
施設改修事業（共用部床の張替え、空調・照明・遮光フィルム工事）
- ・ ゆたか荘（補助事業）
設備改修事業（空調・照明・遮光フィルム工事）
設備更新事業（温冷配膳車・特殊浴槽）
見守りスキャン一部導入
- ・ ハーティヴィラ亀鶴
見守りスキャン試験導入
- ・ 認定こども園長尾学舎
開設準備、開設に伴う行事の運営

法人運営事業

平成 30 年度は次の事業を行った。

- (1) 第一種社会福祉事業
 - ・ 障害者支援施設の経営
 - ・ 特別養護老人ホームの経営
- (2) 第二種社会福祉事業
 - ・ 障害福祉サービス事業の経営
 - ・ 障害児通所支援事業の経営
 - ・ 一般相談支援事業の経営
 - ・ 特定相談支援事業の経営
 - ・ 障害児相談支援事業の経営
 - ・ 保育所の経営
 - ・ 老人短期入所事業の経営
 - ・ 老人デイサービス事業の経営
 - ・ 老人居宅介護等事業の経営
 - ・ 生計困難者に対する相談支援事業
- (3) 公益事業
 - ・ 居宅介護支援事業
 - ・ サービス付き高齢者向け住宅事業

第3章 障害関係事業報告

平成30年度 障害者支援施設のぞみ園 事業報告

平成30年度は、利用者の意思及び人格の尊重、利用者の立場に立った障害福祉サービスの提供、就労支援への取り組み、安心安全な生活環境作りを目標に、高齢利用者の対応の検討、グループホーム運営の充実、発達障害相談支援事業の実施、相談支援事業の充実を課題として取り組んできた。

施設入所支援、日中活動としての生活介護事業、就労継続支援B型事業、生活支援センターのぞみにおける相談事業やグループホーム、のぞみ児童デイサービス事業所等、それぞれにおいて利用者のニーズに沿った支援活動を行ってきた。発達障害児支援事業に関しては、さぬき市の委託から県の地域療育等支援事業に切り替え、臨床心理士1名を中心に人員体制の整備を行い、次年度は実施していくことになった。

毎月の企画調整会議、寮会議において、職員間の連絡調整を図り、職員会議や職員研修会等で職員の資質向上の研修にも積極的に取り組んできた。また、定期的に、入所相談委員会を実施し、入所待機者などを検討する機会を作った。

(1) 施設入所支援

支援内容

- ・ 個別支援計画を中心に本人、保護者の意向の把握に努め、それを反映した支援及び日課を設定、実施していくよう努めた。また、個別のニーズに可能な範囲で対応する個別日課を設定し、定期的に見直しも行った。
- ・ 10月に空調関係の全面改修を実施した。
- ・ 環境美化は週に1回、全体で取り組む時間を作った。
- ・ 31年2月に災害支援事業を受講し、土砂災害対策強化にあたった。
- ・ 休日は楽しく充実した時間が過ごせるよう余暇支援を強化した。
- ・ 家庭と連携し、連絡帳などを通じて情報共有しながら支援にあたった。
- ・ 重度の利用者に対し、絵や写真などを通じ、コミュニケーション支援やスケジュールを実施した。
- ・ 月に1回、安全委員会を開催し、事故、ヒヤリハット報告書の分析、再発防止対策について協議した。

女子寮 15名

年齢層が幅広く、また高齢化及び重度化に伴い身体機能の衰え、高齢や行動障害のために環境調整やマンツーマンでの対応が必要なケースが増えている。また、夜間帯の支援が必要なケースも見られる。

本人の身体状況を考慮し、身体障害者施設へ1名が移行し、それに伴い、通所生活介護より1名が入所した。寮全体では、利用者や保護者の要望を反映した日中活動や余暇、外出などを取り入れ、楽しみを感じながら豊かな生活につなげ、サービスの向上を目指して取り組

んだ。

男子寮 15 名

生活面における基本的な支援だけでなく、コミュニケーションの充実を図り、利用者がどのようなニーズを持っているのかしっかりと把握できるよう努めており、30 年度も月に一回、寮での自治会も開催し、自己選択、自己決定を促した。

男子寮では、健康維持活動として歩行や体操、余暇活動として作品制作やカラオケ、スポーツ、DVD鑑賞、また清掃活動として食堂掃除や浴室清掃、洗車などを行った。

社会参加については、利用者のニーズに合った外出ができるよう支援員とマンツーマンで外出した。また、積極的に地域の行事やスポーツ大会などにも参加した。

ニーズに合った活動を提供しようと努めていることや信頼関係の構築に努めていることもあり、積極的に日中活動に参加できた。

今年度は本人の状況を考慮しグループホーム 1 号館に 1 名移行し、グループホーム 1 号館より 1 名男子寮に移行した。

南寮 20 名

高齢化、重度化に伴い、個別の対応が必要なケースや強度行動障害への支援が必要なケースが見られている。それぞれの特性に配慮した対応や環境の調整などにより比較的落ち着いて過ごせた。

洗濯たたみ、歩行、余暇などの集団的な活動に加えて、個人日課や個別歩行、定期的な個別外出、全体外出等の集団と個別を混ぜながら日中活動を実施した。個別日課は水が好きな利用者はコップ洗い、洗濯物が気になる利用者は洗濯物の仕分けなど本人の興味あること、できること、好きなことを見つけながら取り組んできた。

今後もエンパワーメントとストレングスに視点をあてた個人日課の取り組みを実施することで全体的に落ち着いて生活できるよう支援していく。

短期入所	のぞみ園	15 名	159 件	385 日
	のぞみホーム 1 号館	2 名	14 件	43 日
日中一時	のぞみ園	19 名	276 件	276 日

(2) 日中活動・生活介護

主として日中に、入浴、排泄及び食事等の介護、家事並びに生活等に関する相談、助言その他必要な日常生活上の支援を実施した。それ以外では創作的活動または生産活動の機会の提供、身体機能または生活能力の向上のために必要な援助を実施している。

30 年度は生活介護を 3 つのグループに分け、Ⅰグループが 20 名、Ⅱグループが 21 名、Ⅲグループが 20 名となっている。(31 年 3 月末)

支援内容

- ・ 本人、保護者の意向を確認しそれをもとに個別支援計画を作成し支援にあたった。
- ・ 本人なりの自立、本人なりの楽しみが見つけられることを目標に日課を設定したり余暇

支援を実施した。

- ・ サービス管理者や各部署との連携も図り、各支援マニュアルの一部見直しも行い、支援員全マニュアル確認も行った。
- ・ 年齢の幅や障害の程度差、常に個別の対応が必要なケースが増えていることで、生活の場や活動する空間などの工夫や整備が今後の課題となっている。

(3) 就労継続支援B型事業

就労継続支援B型の利用者は、13名である。

ダンボール組立(富士ダンボール、パック三樹)、和三盆(ばいこう堂)、菓子工房(パン、クッキー、パウンドケーキ)、喫茶コーナー清掃、ゆたか荘清掃、デイサービスセンターゆたかの清掃、デイサービスおしぼり洗濯、社協タオル洗濯、また辛立文化センターの清掃も実施している。

年間を通して園内行事に参加することで、仕事を中心にしながらも、生活感のある就労継続B型を目指して活動している。

軽作業では全体的な需要、生産量が増加傾向にあり利用者の配置、構成などの対応が必要になってきている。また清掃メンバーの高齢化が進んできており、近い将来の世代交代が課題となっている。

(4) 30年度入所・退所(31年3月末)

	女子寮	男子寮	南寮	通所	就労B
定員	15	15	20	10	15
入所	1	1	1	2	2
退所	1	0	0	0	0
園内移行	0	1	0	1	0
利用者数	15	15	20	11	13

(5) グループホーム

グループホームのぞみ

女性利用者5名が共同で生活している。

環境美化などの当番活動などを実施しながらそれぞれが自立し落ち着いた生活を送っている。今後も健康で安心できる生活を送っていくため相談その他の日常生活の支援を実施していく。

のぞみホーム1号館

男性7名が共同生活を送っている。

入浴など生活面での支援が必要な利用者もいるが休日は買い物に出かけるなど地域で落ち着いて生活している。30年度は利用者の状況を考慮し、1名入所(男子寮)への移行、入所(男子寮)から移行して入居している。

30 年度 グループホーム入所・退所

	グループホームのぞみ	のぞみホーム 1 号館
定員	6	7
入所	0	2
退所	0	0
園内移行	0	1
計	5	7

(6) 相談支援事業

生活支援センターのぞみ

地域で生活する障害者、児、その家族の様々な相談を受け対応し、福祉サービスの利用に繋がったり、他機関と連携して困り事を解決してきた。

また、利用者の日々の困りごと等に対して支援してきた。虐待等の困難事例に対しては、関係機関と連携をとり対応している。障害のある方が地域で安定した生活が送れるように支援し一人ひとりに寄り添った支援が提供できることを目指すことを事業方針として取り組んだ。

相談件数

1 指定特定相談支援

計画作成件数 132 件 モニタリング 49 件

2 障害児相談支援

計画作成件数 86 件 モニタリング 18 件

3 指定一般相談支援

30 年度は対象者がいなかった。

4 上記以外のさぬき市・三木町からの委託で実施する基本相談支援

- ・ 障害児・者、その家族の様々な相談を受け対応をする。
- ・ 利用者の日々の困りごと等に対しての支援
- ・ 大川圏域自立支援協議会、香川東部養護学校の進路説明会や地区懇談会、さぬき市発達障害支援連携協議会・児童対策地域協議会等に参加。

(7) のぞみ児童デイサービス事業

1 事業状況

・放課後等デイサービス事業

対象 児童、生徒（6 歳～18 歳）

時間 放課後 6 時間を基本に土曜日（月 2 回）振休日・長期休業中は終日利用（9 時から 18 時）を受け入れた。必要に応じて、前後 1 時間ずつの延長支援対応を行った。

送迎 香川東部養護学校・長尾小学校・志度小学校、津田小学校、さぬき南小学校の下校時刻に合わせて、当所からの迎え（登所支援）を実施した。自宅送迎は行っていない。

・児童発達支援事業

対象 幼児（１歳から就学前）

時間 ９時から１８時の終日利用を受け入れている。必要に応じて前後１時間ずつの延長支援対応を行った。

送迎 実施していない。

・さぬき市発達障害相談支援事業（ほっとすてっぷ）

対象 幼児・児童・生徒本人及び家族、または支援に携わる保育者、教員、支援者等機関支援として学校や幼稚園、保育所訪問を実施している。

時間 ９時から１８時までの随時（事前予約）

２ 事業実績

利用者数	放課後デイサービス事業	37名	4206件	１日平均	15.87名
	児童発達支援事業	6名	326件	１日平均	1.23名
計		43名	4532件	１日平均	17.10名

両事業の多機能 20 名定員で今年度も展開してきた。長期休業中や特定曜日には定員を超える利用があり、毎年実績は着実に増加しているものの目標達成は難しく対策を検討しているところである。

（８）その他

行事	花見、遠足、スポーツレクリエーション、テーブルマナー、クリスマス会等、計 13 回を実施。
地域交流	しょうぶまつり、いきいき福祉まつり、ふれあいウォーク、ひなまつり茶会等、計 16 回実施。
地域貢献	川上地区の清掃活動を月 1 回実施。定期的にさぬき支所などパン販売を実施。
医務	健康診断、歯科検診、定期健診、その他健康管理、衛生管理を実施した。
給食	栄養ケアマネジメント、3 か月に 1 回の保健栄養会議などで利用者の健康維持などについて協議した。
環境美化	年 2 回親子共同作業、年 1 回ワックスがけなどの大掃除を実施した。週 1 回全体で環境美化に取り組んだ。
実習	高松大学、高松短期大学、四国福祉専門学校など計 19 名受け入れた。
職場研修	強度行動障害、利用者高齢化の対応、虐待などをテーマに計 10 回実施。
スポーツ大会	ソフトボール大会、障がい者スポーツ大会、卓球大会など計 7 回参加。
防災訓練	月 1 回実施。火災、土砂災害想定訓練、AED 心肺蘇生講習などを実施した。また、31 年 2 月に災害支援事業を実施し防災対策の充実をはかった。
地域療育等支援事業	臨床心理士 1 名を中心に県の療育事業を実施した。前年度と比較して大幅に件数は増加している。次年度は療育担当支援員を増員して対応する。
	訪問療育事業 34 件

外来療育	216 件
施設一般	29 件

第4章 高齢者関係事業報告

平成30年度 特別養護老人ホームゆたか荘 事業報告

団塊の世代が75歳以上となり後期高齢者の人口が増加する2025年に向けて、介護が必要な高齢者や認知症高齢者が更に増加する事が予測され、医療と介護が連携した地域包括ケアシステムの構築が求められている。

一方、介護現場では、人材不足が深刻化しており、今後増大する介護需要に対応するためには、介護のイメージアップを図り、さらなる処遇改善や働きやすい職場環境の整備を促進し、介護人材の確保・育成・定着に努める必要があり、30年度は香川県社会福祉協議会と協力して「介護の未来と可能性」をテーマに職員がモデルとなり、高校生を対象に啓発活動を行った。

高齢化が加速していく社会の中で、施設は社会福祉法人としての意義や役割を踏まえ、これまで築き上げてきた専門性と高い公共性を堅持しながら、地域包括ケアの推進役として機能を発揮し、地域住民や関係機関との連携を強化するとともに、地域福祉・介護を守る中核的拠点としての役割を果たさなければならない。介護の重度化・医療的なニーズの増加にて、再入院や看取り退所、感染症の発症等、ベッドコントロールが難しい1年であったが、この経験を次年度に活かし入所待ちされている方を速やかに受入れられる体制を整えていきたい。

I 平成30年度 ゆたか荘取り組み目標に対する成果

■ 自立支援に向けた 専門性の高いチームケアの提供

社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・看護師・准看護師・管理栄養士・歯科衛生士・認知症ケア専門士・認知症介護指導者等の専門知識を持った職員が在籍し、利用者に専門的なアプローチをチームで心がけた。

全職員が12の委員会に分かれて積極的に活動し、委員会の中で知識や専門性を高めるとともに、各委員会が主催となって職員研修を行う等、介護技術や専門知識の向上に努める事ができた。全国老人福祉協議会、香川県老人福祉協議会、介護労働安定センター等主催の外部研修にも積極的に参加し、最新の介護情勢や他施設の取り組みも学ぶ事ができた。

■ 利用者の視点に立った 生きがいや喜びが感じられる暮らしの提供

近隣の小学校・幼稚園・保育所と定期的に交流を行い、子どもと触れ合う機会を多く持てた。

一緒に手遊び等、歌や遊戯を楽しむことで、穏やかな気持ちになり笑顔溢れる1日を過ごして頂けた。また、希望者にはバス遠足を計画し、30年度もリフト機能付きの観光バスを貸し切って塩江で自然を満喫する事ができた。利用者の重度化が進み外出が難しくなる中、家族のご協力に感謝しつつ、一緒に過ごせる貴重な時間が作れたのではないかと感じている。施設という空間の中でも、自己決定でき自由な時間と気分転換が確保できるよう、飲み物やケーキ類が選べる喫茶の開催、ショッピングで自分の買いたい物が選べる機会、そして桜、菖蒲、菊と季節の花を楽しめる外出行事と、心豊かな生活ができるよう、ご支援させていただいた。

■ 利用者にとって安心・安全な介護を提供

利用者の身体状況や生活状況等については、多職種が協働で作成した「介護情報シート」を基に、介護支援専門員が包括的自立支援プログラムを使用してアセスメントを実施、多職種がチームとなって、その時の状態にあったベストなケアを安全に提供しよう心がけた。毎月、安全対策委員会を開催し、月内に発生した事故報告やヒヤリハットの分析を行い、安心・安全な暮らしができるように再発防止策を検討、対策後の対応に問題ないかモニタリングを行った。

福祉用具や介護用品も安全と快適面に配慮した製品を採用したり、ノーリフティングケアを導入する事で介護する側、される側も負担にならないケアに取り組んだ。生活の中でのリスク管理も気を付けた。災害マニュアルを整備し、行政や消防の協力のもと、年6回のテーマ別に自主防災訓練を実施、備蓄品の点検、確認を行い災害時にすぐ動けるような体制を整えた。

■ 利用者の尊厳と想いを大切にしたい個別ケア

4人部屋という環境の中、気持ち良く過ごしていただけるよう、プライバシーを守ることに配慮した。また、個別ケアとして自宅への一時帰宅や外食時の送迎支援等、家族とのつながりが継続できるような機会を大切にしたい。

人生の終焉まで安心して過ごして頂く場として、介護支援専門員が中心に、嘱託医・介護・看護・管理栄養士・歯科衛生士がチームとなり、「尊厳ある看取り」ができるよう、心を込めて行った。家族には「看取り後のアンケート」をご記入いただき、素直な感想や改善が望まれる部分があればご意見いただき、次の看取りケアに活かせるようにした。

■ 優秀な福祉人材の確保と育成

幅広く優秀な人材が確保できるよう、長尾福祉会の全体像を知って頂けるようなテレビコマーシャルを放送、新卒者以外にも経験豊富な介護人材の採用にも力を入れた。定期的に開催されている就職フェアにも参加し、中堅職員が働き易さや施設の特色等を伝える事ができた。また、スキルアップのための資格取得を支援し、新たな資格を取った職員には資格の種類に応じて資格手当を支給した。

■ 福祉の啓発と地域貢献活動

地域と施設がお互いに助け合い、地域の一員として施設を活用して頂けるような取り組みを継続している。長尾小学校3年団に、車椅子体験で子ども達が福祉に興味を持てるような体験型の福祉啓発活動の実施等、地域で暮らす認知症の方への理解とサポートができるよう、地域包括支援センターと連携し「認知症サポーター」の養成講座を6年生に開講した。地域の美化活動やサロン会活動の支援、朝の「あいさつ運動」等、地域の子どもや元気な高齢者と交流する機会を持つことで、地域の福祉ニーズの把握に努めた。地域を良くする活動として、さぬき市高齢者虐待防止ネットワークや長尾地区地域福祉活動計画の策定にも参加、他にも長尾小学校の評議委員として学校関係にも参加・協力する事で、地域福祉ニーズの把握に努めるとともに、福祉の向上と安心して暮らせる社会づくりに協力できた。

■ 効率的運営と安定的経営

利用者の高齢化・重度化により、長期的な入院治療を必要とされる方が増えており、長期入

所者の空床をショートステイで活用する等、効率的な運営を心がけた。また、人件費や消費税の上昇も予定されており、介護保険外のサービスについては別途費用の請求も止む負えない状況があり、次年度の課題としたい。

Ⅱ 有資格者の状況及び資格取得支援（31年3月現在）

資格名	人数（重複有）	今年度取得者
社会福祉士	2	
施設福祉士	1	
介護福祉士	23	4
管理栄養士	1	
介護支援専門員	4	
主任介護支援専門員	1	
看護師	5	
保健師	1	
准看護師	2	
保育士・幼稚園教諭	1	
歯科衛生士	1	
ヘルパー2級	2	
実務者研修修了	4	1
認知症実践者研修	6	1
認知症実践者リーダー研修	2	1
防火・防災管理者	2	2
喀痰吸引（14時間・50時間）	4	
1種衛生管理者	1	
技能実習責任者	1	1
技能実習指導者	1	1
技能実習生活指導者	1	1
実習指導者	4	

今後も質の高いケアを目指し、職員全体が自己研磨に励むとともに、スキルアップに向けての資格取得支援を続けていきたい。

Ⅲ 施設サービス活動

<施設サービス部門>

【生活相談業務】

長期・短期入所者の利用相談にあたっては、随時相談業務を実施し、法人担当者と連携を図りつつ、介護負担軽減、利用者のサービス利用につながるよう努めた。相談内容としては、気温が下がる時期に体調不良による入院後に介護が必要になった方、認知症の進行にて自宅での生活が困難になったり、キーパーソンがいない方、独居状態で介護を頼める方がいない方等が増えてき

ている。待機者の状態で対応できないケースもみられるが、ケアマネージャーを通じて、できるだけ迅速な対応が出来るように調整を行った。

利用者への相談業務としては、重度・高齢化が進んでおり、入退院を繰り返す利用者が増加している。治療をしても回復に時間がかかったり、看取りケアを視野に入れた退院を希望されるケースもあり、常に病院と連携を図りつつ、安全でスムーズな受け入れが出来るよう各部署間で情報共有に努めた。

今後の課題として、心身状況の重度化が進んでいる利用者の受け入れ体制を整えると共に、各部署・各関係機関との連携を図り、利用率の確保と利用者・家族とのより良い関係を築いていきたい。

〔利用状況〕

短期入所生活介護(予防含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	1	1	1	1	1	1	1	0	1	2	1	1	12
要介護1	3	2	3	4	1	1	1	0	1	1	1	1	19
要介護2	5	5	4	3	4	3	3	5	5	9	10	12	68
要介護3	14	15	14	16	20	21	17	19	18	21	17	20	212
要介護4	8	9	8	7	4	3	3	1	2	0	1	1	47
要介護5	3	4	4	4	5	3	3	3	3	4	3	3	42
実人数	34	36	34	35	35	32	28	28	30	37	33	38	
延べ人数	542	566	549	560	594	549	518	470	593	545	516	603	6605
月平均利用者数	18.1	18.3	18.3	18.1	19.2	18.3	16.7	15.7	19.1	17.6	18.4	19.5	18.1
稼働率	90.3	91.3	91.5	90.3	95.8	91.5	83.5	78.3	95.6	87.9	92.1	97.3	90.5

長期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	2	2	2	3	4	4	4	4	4	4	4	4	41
要介護3	11	11	11	10	10	10	10	11	11	12	11	11	129
要介護4	11	11	11	12	12	11	11	11	12	12	12	14	140
要介護5	26	26	26	25	24	25	25	21	23	23	22	20	286
実人数	50	50	50	50	50	50	50	47	50	51	49	49	
延べ人数	1443	1526	1483	1543	1519	1470	1386	1409	1474	1510	1309	1409	17481
平均介護度	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4	4.1	4	4	4	4.1
月平均利用者数	48.1	49.2	49.4	49.8	49.0	49.0	44.7	47.0	47.5	48.7	46.8	45.5	47.9
稼働率	96.2	98.5	98.9	99.5	98.0	98.0	89.4	93.9	95.1	97.4	93.5	90.9	95.8

入所検討委員会

入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	2	1	1	1	0	1	1	1	1	2	0	1	12
介護度5	1		1			1	1			1			5
介護度4	1	1		1					1			1	5
介護度3								1		1			2
退所者数	1	2	1	0	1	1	1	0	2	1	0	1	11
医療機関入院	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
死亡	1	1	1	0	1	1	1	0	2	1	0	1	10

申し込み待機者数 247 名

【給食】

栄養管理では、毎日の食事量・摂食状況・体重の増減や身体状況を把握し、食事内容や形態など多職種で話し合い連携することにより、利用者ひとり一人に合わせた栄養管理を実施することができた。また、カンファレンスに参加する事により、利用者・家族の意向を伺い、より利用者のニーズに応えることができた。

経口維持に関しては、嘱託医の指示のもと、各部署協働で食事形態の見直し・変更を行う事ができた。また、その一連の経過を栄養マネジメントの手順に従い、加算につなげた。

給食サービスの安定・充実を目標とし、給食委託業者との連携・意見交換に重点をおいて進めていった。行事食では委託業者の持っているノウハウを十分に発揮していただき、ペースト食・MIX食の方にはムース食を導入することで、見た目も鮮やかな食事を提供することができ、多くの利用者に食事からも季節を感じて頂き、「美味しい」「また食べたい」等の声が聞けた。

【医務】

目標にしていた「高齢に伴う疾病や日常生活動作の低下など、利用者の気持ちに沿った心の込められた適切な医療や機能訓練の提供を行う」を実施するため、疾病の早期発見、体調管理を重点に行った。治療方針については、日々変わる体調の変化にも気づき、その都度家族へ説明し、カンファレンスを開催するなど、取り組みの方向性を明確に、個々の意向に沿った医療が提供できた。

昨年度は全国的にインフルエンザが大流行しており、残念ながらRSウイルス、インフルエンザ感染症が施設でも流行した。免疫力低下のある高齢者では、体調が急変することもあるため、感染症を「持ち込まない」「広げない」「持ち出さない」ように各部署で再発防止に向けての予防策も話し合った。また、施設利用者も以前に増して高齢化が進み、体調の急変する方や看取り期の方も多くなっている。今後も感染症に注意しながら、利用者・家族の方々の意向に沿った医療の提供と、尊厳を大切にした看取りケアについても心を込めて実施していきたい。

<利用者の健康管理>

血圧測定・体重測定（毎月）、検尿、結核健診（該当者）、血液検査（年1回と必要時）
嘱託医の回診（週2回と必要時）、看護師による健康観察（毎日）、内服薬の管理
褥瘡管理シートの作成（週1回）、褥瘡検討会（月1回）

<介護職員腰痛検診>

年2回、嘱託医にて

<職員健康診断>

年1回（夜勤職員については、年2回）

< 医務実績報告 >

	受診数	入院者数	退所者数 (死亡)	施設 (看取り)	注入者	喀痰 吸引者
4 月	24	1	1	0	5	0
5 月	25	2	1	1	5	0
6 月	21	0	1	0	5	0
7 月	21	1	0	0	5	0
8 月	13	1	1	1	5	0
9 月	15	2	1	0	5	0
10 月	23	9	1	0	5	0
11 月	22	0	0	0	4	0
12 月	19	2	2	1	5	0
1 月	24	2	1	1	6	0
2 月	21	7	0	0	3	0
3 月	23	4	1	1	4	0
総数	251	31	10	5	57	0

< 再入院 > : 同一疾患にて入院延件数

5 件

< 最多入院歴 >

1、尿路感染 2、誤嚥性肺炎

< その他 >

医療廃棄物の管理、医薬品、医療機器の管理

【サービスステーション】

利用者の尊厳ある生活が継続できるよう、専門職との連携を図りながら心身の状態に合わせたサービスを提供できるように努めてきた。サービスステーション会議・フロア会議の参加率を 80%以上に目標を設定しており、年間通じて 94%の出席率を確保する事ができた。ケアカンファレンスの参加率についても 80%以上と設定しており、勤務時間内で職員間が協力し合いながら 90%の出席率を確保する事ができた。

各種会議の場で、個々の利用者の方の心身の状況について細かな部分まで話合う事ができた反面、決まり事が多くなりケア内容を把握する事や継続していく事が難しく、苦慮する場面もあった。部署間・サービスステーション職員間でもスムーズな情報伝達が行えておらず、対応やケアに違いが出てくる等の課題が浮き彫りとなった。

毎月の会議では前月の振り返りを行い、対応が統一して行えているか、継続していく必要があるのか等、様々な視点から議論・考察し、必要な内容に関しては深め、試行した結果継続が必要でない内容や決まりごとは削除する等、情報の整理と簡素化を図った。

年間を通し、季節感が感じられる多彩な行事を計画・開催した。行事を実施することで、利用者の生活を豊かにすることができ、またお互いの信頼関係の構築を図る事ができた。

【実施した行事】

- 4月 お花見
5月 鯉のぼりを楽しむ会（地域交流行事）
6月 菖蒲観賞会（長尾亀鶴公園）
7月 七夕まつり
行基ハイツタ涼み会（地域行事参加）
8月 納涼夏祭り
9月 敬老会
10月 菊花展見学（大川町みろく）
ながおいきいき福祉祭り（地域行事参加）
バス遠足（塩江町：ホテルセカンドステージ）
11月 長尾地区文化祭（地域行事参加）
12月 忘年会
地域交流餅つき大会（地域交流行事）
1月 新年祝賀
初詣
2月 節分豆まき
3月 開荘記念行事
のぞみ園ひな祭り茶会
喫茶（3回／月）
ショッピング・外食ドライブ（4月～10月）
個別外出

〔SS会議〕	・ 定例開催	12回／年
〔グループ会議〕	・ 定例開催	12回／年

【介護支援専門員】

介護保険の更新期間に合わせ、原則6ヶ月毎に1回のケアプランを見直し・作成、ケアカンファレンスとケア変更時や看取り期に移行する際のケアカンファレンスを開催しケアプラン検討・変更・計画を行った。利用者・家族・各部署職員から情報を得て、アセスメント・モニタリングを行い、一人ひとりの利用者に応じたケアプラン作成に努めた。

ケアカンファレンス出席者は、利用者・各部署職員だけでなく、家族にも参加を依頼し日程調整を行ったうえで開催した。仕事等で参加できない家族には、電話で意向を確認し、来荘時にケアプラン説明を行った。

また、月1回開催されている「香川思いやりネットワーク事業」のさぬき市地域ネットワーク会議個別ケース検討会に参加。さぬき市社会福祉協議会がコーディネート役となり、民生委員や参画している社会福祉法人施設の方々と一緒に、様々な原因で生活に困っている方（生活のしずらさを抱えている方）の相談、支援を行った。

〔カンファレンス〕	・ 定例開催	97回／年
-----------	--------	-------

[認定調査]	・ケアの変更・看取りケア	13回／年
	・高松市からの委託	21件／年
	・さぬき市からの委託	21件／年

【地域施設連携担当】

あいさつ運動やクリーン活動などの地域貢献活動の継続と、地域イベントの運営に携わることで、地域のニーズ把握や各種団体との連携を図ることができた。

交流については、各種団体の皆様のご協力のもと、多くの方々に訪問・ボランティアにご参加していただくことができた。利用者に最も喜ばれている子供たちとの交流に関しては、長尾聖母幼稚園・長尾保育所、長尾幼稚園・長尾小学校が定期的に訪問してくれているとともに、高松くりの木保育園との交流も加わり、納涼夏祭りや地域交流餅つき大会などを含め、年間通して子ども達と触れ合える機会が多く持てた。子ども達との交流を通し、福祉に興味を持っていただくことは、社会福祉法人の役割として貢献できたものとする。

保育所・幼稚園との交流	7回／年
地域団体との交流	13回／年
小学校との交流	9回／年（1学年3クラス×3回ずつの交流）
地区水路清掃（川上自治会）	1回／年
あいさつ運動	6回／年（土・日曜日、祝祭日を除く毎月8日に実施）
地元地域クリーン活動	12回／年
地域祭事	3回／年（行基ハイツ夏祭り・いきいき福祉祭り）

福祉人材の育成については、介護福祉士及び実務者研修養成校等からの実習生の受入を積極的に行うとともに、イベント時にボランティアを募る等、多くの学生に来荘いただくことができ事業所の紹介も行った。実習生の受入については、指導者となる職員の自己啓発にもつながるため、今後も継続した受入を実施していく。

介護福祉士養成実習	延 2名（延35日間）
高校生総合的学習	延30名
徳島文理大学薬学部	延 1名（延 1日間）
実務者研修	延 4名（延12日間）

今後については、活動の内容をより充実していくとともに、当法人理念にもある「社会づくり」を実現するためにも、近隣自治会や社会福祉協議会等との連携・交流を深め、福祉に関する啓発活動に力を入れていきたい。そして、社会福祉法人がもつ知識や技術を福祉啓発活動の一環として地域に還元し、地域・施設を利用される全ての皆様の人生が、より良いものになるよう携わっていきたい。

【機能訓練】

利用者の身体機能を把握及び機能訓練に対する意向を確認したうえでカンファレンスに参加し、訓練の実施状況等を家族に説明させていただき、プログラムに反映させた。また、理学療法士の専門的

な視点から訓練プログラムを作成し実施してきた。利用者の重度化、高齢化を踏まえ機能向上を目指すのではなく、生活の中でのリハビリを中心に実施してきた。しかし、短期間で機能低下した利用者については、機能回復を目指したプログラムで実施した方もいる。引き続き、多職種と連携を図りながら自立した生活に繋がるリハビリを実施していきたい。

【歯科衛生士】

訪問歯科診療が充実し、積極的な治療や歯科医からの指導アドバイスが頂ける体制が整った。

また、口腔ケア研修により職員の意識も高まり、職員同士で相談・検討し提案したり、不明なことは積極的に質問するなど、利用者の方の口腔ケア方法、食事介助や食事形態、姿勢にも気を付けるようになった。今後も利用者が誤嚥なく、よく噛みおいしく食事をして頂けるように、職員一丸となり口腔ケアや姿勢の修整・維持に取り組んでいきたい。介護職員も食事前の体操と合わせて口腔体操を行ってくれる時もあり、変化のある口腔体操を利用者も楽しまれている。

IV 家族との連絡、協力体制の強化

[家族会の開催]

○第1回家族会（平成30年6月24日）

・平成29年度事業報告

○第2回家族会（平成30年9月16日）

・敬老会 祝宴「和太鼓集団 夢幻の会」 長寿番付表による表彰

・昼食交流会

○第3回家族会（平成31年2月24日）

・講演 「自分らしい人生の終末期を迎えるにあたって」

～エンディングノート：自身の希望・意思決定について～

四国こどもとおとなの医療センター

附属善通寺看護学校 阿部 美知子 氏

[アンケート等]

○家族アンケート年1回実施

○利用者アンケート年1回実施

平成 30 年度 デイサービスセンターゆたか 事業報告

平成 30 年度においても一昨年同様、利用者の獲得と定着に苦慮した一年であった。

要介護度 3 以上の対象者が施設サービスの主体になってきているなか、通所サービスの利用率向上、維持は容易ではないのが現状であった。利用率こそ前年比を上回ることができたが、全体の 3 割の利用者は他の介護サービスと併用しており、身体状態、家族状況に応じて利用変動がみられており、固定曜日利用が希薄している印象であった。

地域の同業サービスとの比較においてもサービス品質に大差なく、選ばれるサービス作りが難しくなっていることを実感することが多い年であった。その中でも長時間サービスの特色を生かしながら地域ニーズに沿った受け入れができた。

今後のデイサービスの在り方として、認知症者、軽度利用者（要介護 1、2）への状態維持、改善に向けた専門的な取り組みが重要となってきた。また、混合介護と呼ばれる保険外サービスの国の動向を注視しながら自事業所の機能と照らし合わせながら検討していく必要があると考えられる。

1 要介護度別利用者数・平均利用者数・稼働率

平成29年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人数 (人)	要支援	30	30	29	29	28	31	29	30	29	29	29	29
	要介護	94	90	88	87	88	87	90	93	91	89	92	94
延べ人数(人)		1,103	1,196	1,153	1,166	1,202	1,176	1,211	1,217	1,140	1,075	1,120	1,296
平均利用者数(人)													
定員55名(月～金)		45.5	45.1	45.3	46.5	45	45.7	46.7	47.4	46.1	45.6	47.2	49.5
稼働率(%)		82.8	82.1	82.3	84.5	81.9	83.1	84.9	86.1	83.9	83	85.8	90
平均利用者数(人)													
定員45名(土)		34.4	35	34.2	34.4	36.2	39.8	40.5	40.5	37.5	37	41	37.8
稼働率(%)		76.4	77.7	76.1	76.4	80.5	88.4	90	90	83.3	82.2	91.1	84
平成30年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人数 (人)	要支援	30	31	28	26	26	25	24	23	24	24	24	23
	要介護	98	97	96	96	97	100	95	99	95	92	88	86
延べ人数(人)		1,216	1,327	1,262	1,263	1,286	1,181	1,300	1,271	1,221	1,142	1,138	1,180
平均利用者数(人)													
定員55名(月～金)		49.7	50	50.9	49.1	48.3	48.1	49.2	50	50.4	49.2	49.1	46.9
稼働率(%)		90.4	91	92.6	89.4	87.9	87.4	89.5	90.9	91.7	89.5	89.2	85.3
平均利用者数(人)													
定員45名(土)		37	38	38.4	38.2	43.2	43.8	41.7	42.5	42.4	39.2	39	38.8
稼働率(%)		82.2	84.4	85.3	85	96	97.3	92.7	94.4	94.2	87.2	86.6	86.2

年間を通して大きな増減はなく、横ばいな状態が続いていた。例年、秋から冬にかけて体調変化等による欠席、入院にて稼働率低下がみられていたが、その波は少なかったものの、3月においては、季節の変わり目からくる風邪等による体調不良者がみられ、利用率の伸び悩みの原因となった。

・介護予防教室事業（さぬき市委託事業）

3年目を迎えたさぬき市介護予防教室において、少しずつ地域へ浸透してきており、参加率は前年比を上回ることができた。1日約7名程度の参加であるが、実施場所の活動状況を踏まえ、10名未満が適度な参加数と考えられる。取り組みとしては身体面、精神面予防への意識が高い方への運動促進等を実施し、地域への浸透の足がかりとはなった。

・(29 年度)

年間登録数 23.5 人（全コース）年間延べ人数 839 名（全コース）・1 日平均 4.9 人

・(30 年度)

年間登録数 28.6 人（全コース）年間延べ人数 1,258 名（全コース）・1 日平均 7.7 人

2 会議状況

日 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
デイ会議	24	29	26	31	28	25	30	27	28	29	26	28

新規・追加利用者の情報共有や同性介護の視点からサービスの評価、見直しを検討する。また、レクリエーションの月間予定の検討を行うとともに、利用者個別の案件の評価・見直し等を定期的に行うことで要望や現状に合った対応を心がけることができた。

3 情報機能

- ・デイサービス便りの発行 : 毎月末発行
- ・ホームページ更新 : 3 か月ごとに更新

4 地域交流事業（外部団体・個人）

- 5 月 ボラえもん・さぬき民俗芸能保存会
- 6 月 楽しいハーモニカ豊考舞会
- 7 月 どじょうすくい慰問
- 8 月 オカリナ教室
- 9 月 琉球太鼓慰問
- 11 月 どじょうすくい慰問
- 12 月 銭太鼓慰問
- 1 月 フラワーアレンジメント教室
- 2 月 おいで舞慰問
- 3 月 フラダンス教室

平成 30 年度 ハーティヴィラ亀鶴 事業報告

【概況】

ハーティヴィラ亀鶴は利用者の福祉サービスのニーズに対して、施設内事業所で切れ間なくサービス提供をすることを目指して事業を実施してきた。今年度からは、高松くりの木保育園との世代間交流を新たに加え、子どもとの交流を行った。

また、利用者のQOL向上や低栄養に関し食からのアセスメントを行いメニュー開発や利用者からの聞き取りに力を入れた。事業所間連携については職員にも浸透し、様々な身体状況についての申し送りもしっかりできるようになった。

施設内共通事業

事業所連携会議の運営

4月21日、8月3日、12月6日、3月20日に開催

香川おもいやりネットワーク（生活困窮者に対する相談支援事業）の活用と推進

運営委員会への委員派遣（毎月）

実務者の養成

地域ネットワーク会議への派遣

相談派遣、フードバンク、一時金支出、中間的就労、買い物援助、食事サービス等の援助

資格取得支援

介護職員実務者研修への派遣3名

介護福祉士取得支援3名

平成 30 年度 ハーティヴィラ亀鶴ショートステイセンター 事業報告

【概況】

既存利用者の重度化、利用日数延長や定期利用、新規利用者数は増加している。しかし、入院や死去、特養への長期入所と利用終了になることもあり、月ごとの利用状況には波があった。

今後も長期入所や死去等で利用終了となるケースはあると思われる。居宅介護支援事業所と連携を取りながら、利用者の受け入れ、利用が円滑に行えるようにしていきたい。

1 利用状況について

【利用延べ人数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要支援 1	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
要支援 2	4	0	2	2	4	2	0	0	0	0	1	1	16
要介護 1	17	17	25	19	25	32	26	35	23	40	39	62	360
要介護 2	71	61	54	76	74	74	98	97	147	102	82	89	1025
要介護 3	232	215	193	191	201	191	194	187	184	204	202	236	2430
要介護 4	101	170	183	202	174	151	162	135	159	179	119	56	1791
要介護 5	121	121	117	119	123	117	121	114	88	85	90	145	1361
合計	548	588	574	609	601	567	601	568	601	610	533	589	6989

・前年度同様、要介護 3 以上の利用者の割合が高い。

【稼働率】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
利用合計	548	588	574	609	601	567	601	568	601	610	533	589	6989
1 日平均	18.27	18.97	19.13	19.65	19.39	18.9	19.39	19.17	18.93	19.68	19.04	19	19.15

・30 年度稼働率：95.74% / 稼働率は目標の 95%は達成出来ている。

2 委員会活動について

①感染対策委員会

開催日	4/18	5/14	6/20	7/25	8/22	9/28	10/15	11/27	12/20	1/25	2/20	3/13
人数	7	7	7	7	7	全職員	6	7	5	5	6	6

- ・感染症は年末より利用者 2 名、職員 3 名がインフルエンザ A 型を発症。検温の実施、他部署への移動の制限を実施し、感染拡大には至らなかった。感染症が命に係わることもあるため、健康状態の確認、異常があった場合は早期に対処するとともに、手洗いやうがい、消毒は継続していきたい。
- ・口腔ケアの他、季節によって流行するインフルエンザ、ノロ等を感染症の研修として随時行っ

ている。

- ・ 感染対策マニュアルについては年1回の見直しを実施している。

②レクリエーション委員会

開催日	4/16	5/22	6/22	7/18	8/29	9/22	10/25	11/17	12/31	1/28	2/22	3/11
人数	4	4	3	4	4	5	4	4	5	5	3	5

- ・ 合同レクリエーションはユニット対抗で運動をしたり、紙芝居を見たりと会話や笑顔が自然と生まれ、他者とのつながりを持つことの出来るものとなった。
- ・ 手作りおやつでは作業を分担し、参加が出来るように配慮した。出来たおやつを「美味しい」「上手くいった」などと話をしながら楽しく食べることが出来た。
- ・ 誕生日プレゼントは予算の中で柄違いのタオルを購入。生活の中で使っていただけている。

③安全対策委員会

【年間件数】 事故報告：56件、ヒヤリハット：3件

- ・ 29年度と比較すると年間件数は減少している。内出血（24件）、転倒（16件）の事故は多い。
- ・ 安全に生活をしていただけるよう、どの場面が危険か、どうすればリスクの回避が出来るかを考え、職員間での情報共有をしっかりと行っていきたい。

④生活向上委員会

開催日	4/3	5/16	6/5	7/2	8/3	9/2	10/4	11/5	12/3	1/5	2/5	3/4
人数	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

- ・ 各ユニット、看護師、生活相談員で利用者の状態を把握、ケア内容の検討をすることが出来ている。
- ・ 委員会で決定した事項は各ユニット会（1週間以内）、会議録の作成で全職員が確認できるようになっている。すぐに改善を要することは口頭や書面、毎日の申し送りで周知を行っている。
- ・ 居室の環境整備や本人の状態に合わせた介助、状況に合わせたケアは十分とはいえない状況である。

利用者が安心・安全に過ごせるよう、情報共有や『報告・連絡・相談』を行っていきたい。

⑤拘束委員会

開催日	4/3	5/16	6/5	7/2	8/3	9/2	10/4	11/5	12/3	1/5	2/5	3/4
人数	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

- ・ 身体拘束については実施していない。（センサーコールはショート利用者で必要な方に使用中）
- ・ 物理的（4本柵、ミトン型手袋等）な拘束はしていない。言葉で利用者の動きを制限する言葉（ちょっと待って等）の認識は薄い部分もある。職員は拘束理解した上で支援を行っていく。

3 その他

① 環境整備

- ・ 月ごとに項目を決め、分担表を作成して実施を行った。（8、11、2月は実施せず）
- ・ 枕の洗濯、乾燥は季節の変わり目（4、7、1月）に実施。

② ユニット会議

亀	開催日	4/8	5/9	6/9	7/6	8/5	9/5	10/10	11/6	12/4	1/7	2/8	3/5
	人数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4
鶴	開催日	4/6	5/7	6/13	7/3	8/7	9/7	10/9	11/8	12/6	1/9	2/6	3/7
	人数	4	5	4	6	6	6	4	5	5	5	5	5

- ・ 各ユニット利用者のケア内容の検討を行った。また生活向上委員会で決定した事項を周知している。
- ・ 夜勤や日勤で両ユニットの対応することが多いため、他ユニットの情報を把握できるようにしている。

平成 30 年度 ハーティヴィラ亀鶴ヘルパーステーション 事業報告

【概況】

30 年度は施設外のヘルパー業務を推進し、ニーズもあったが、当施設の利用者とサービス時間が重なることもあり、提供まで至らないことが多かった。今後は登録ヘルパーの活用も含め一人でも多くのサービス提供が受けられるように努力したい。

ヘルパーの質の向上についてはヘルパー全員が介護福祉士を取得した。

【利用者の内容】

要介護度別利用者

要介護度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	1	1	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	8
要介護 1	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	3	2	41
要介護 2	3	2	2	2	2	2	1	2	3	4	3	4	30
要介護 3	2	2	2	1	2	2	1	1	1	1	1	1	17
要介護 4	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	7
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合計	10	8	8	7	8	8	7	9	9	11	9	9	103

サービス別平均利用回数

サービス内容	単位数	延べ回数	実人数
身体 1 ・ II	273	702	11
身 1 生 1 ・ II	345	9	1
身 1 生 2 ・ II	418	53	1
身体 2 ・ II	433	238	4
身 2 生 2 ・ II	579	15	2
訪問介護初回加算	200	3	3
生活 2 ・ II	199	258	7
生活 3 ・ II	245	43	1
訪問型独自サービス I ・ 同一	1, 051	1	1
訪問型独自サービス II ・ 同一	2, 102	53	2
訪問型独自サービス初回加算	200	1	1

要介護別平均利用時間

要介護度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
要支援 1	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00
要支援 2	0:32	0:30	0:39	0:41	0:00	0:00	0:00	0:30	0:00	0:53	1:00	0:58	0:46
要介護 1	0:40	0:46	0:45	0:43	0:46	0:44	0:37	0:44	0:44	0:46	0:48	0:40	0:44
要介護 2	0:52	0:57	0:59	0:34	0:45	0:47	0:29	0:45	0:31	0:38	0:39	0:35	0:43
要介護 3	0:35	0:34	0:35	0:38	0:33	0:46	0:31	1:00	0:43	0:45	0:30	0:33	0:36
要介護 4	1:00	2:00	0:00	0:00	0:53	0:00	0:37	0:38	0:37	0:38	0:40	0:37	0:40
要介護 5	1:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	1:00	0:00	1:00
総平均	0:43	0:42	0:42	0:38	0:38	0:45	0:33	0:42	0:39	0:42	0:39	0:38	0:40

会議の開催

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
19 日	16 日	20 日	26 日	30 日	24 日	25 日	22 日	21 日	25 日	20 日	20 日

平成30年度 ハーティヴィラ亀鶴 サービス付き高齢者向け住宅 事業報告

概況

日頃から生活状況の観察とコミュニケーションを取りながら、入居者自身の安心と家族の安心に努めた。どの利用者からも日常の相談事も増え可能な限り対応するようにした。利用者が安心して利用者と家族との距離感も良くなり、以前に比べて親子の会話が増えたとのお話もいただいた。

主要事業

安否確認サービス

健康確認サービス

食事サービス

会議の開催

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
19 日	16 日	20 日	26 日	30 日	24 日	25 日	22 日	21 日	25 日	20 日	20 日

利用者の状況（平成31年3月31日現在）

30年度利用延べ人数	新規利用者	退去者
14 人	2 人	3 人

要介護度別利用者数

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0 人	1 人	1 人	6 人	2 人	1 人	0 人

平成 30 年度 ケアプランセンターゆたか 事業報告

- 1 事業目標に対し、介護保険制度の改定に伴い事業所内での確認、把握を行い対応することができた。研修に関しては各々必要な研修に参加し、スキルアップにつなげ、また、主任ケアマネージャー更新に必要な研修を受けることができ、今年度からの他事業所との研修会を年 2 回開催しより意見交換ができるようになった。
- 2 安定した運営に対しては、ケアマネージャー 6 名に対しそれぞれが目標としたケアマネージャー 1 人に対し、担当件数 30 件が達成できなかった。3 月よりケアマネージャー 5 名体制になり、利用者を引き継ぐことにより概ね 30 件になりつつある。今後もケアマネージャー 1 人当たり担当件数 30 件以上を目標に行っていく。予防介護に関しては委託を受け、担当人数にばらつきあり、5 件以上担当になっている。

病院との連携

入院時、退院時の情報交換等 担当ケアマネージャーが、責任をもって対応することができた。包括支援センターとの、要支援に移行した際に、連携しスムーズに移行ができるようにした。

安定した運営

利用者件数に関しては、達成する事が出来なかった為、次年度達成できるよう関係機関と連絡調整を密にする。

30 年度 利用者数 ケアマネ 6 名

	新規利用 (介護)	新規利用 (予防介護)	契約終了 (介護)	契約終了 (予防介護)	要介護 利用請求者数	予防介護 請求者数
4 月	5 名	1 名	3 名	0 名	149 名	18 名
5 月	5 名	0 名	3 名	0 名	152 名	18 名
6 月	4 名	1 名	5 名	0 名	154 名	19 名
7 月	2 名	0 名	3 名	0 名	152 名	19 名
8 月	1 名	0 名	5 名	0 名	151 名	19 名
9 月	2 名	2 名	6 名	1 名	149 名	19 名
10 月	3 名	4 名	2 名	1 名	145 名	22 名
11 月	5 名	0 名	1 名	0 名	149 名	22 名
12 月	3 名	0 名	3 名	0 名	149 名	22 名
1 月	2 名	0 名	0 名	0 名	149 名	22 名
2 月	4 名	0 名	2 名	1 名	143 名	21 名
3 月	2 名	0 名	1 名	2 名	146 名	19 名
	計 38 名	計 8 名	計 34 名	計 5 名		

第5章 児童福祉関係事業報告

平成30年度 高松くりの木保育園 事業報告

【概況】

高松くりの木保育園は、2018年4月より定員105名で開園し、高松市の待機児童対策のみならず、保育方針や内容が支持され信頼される保育園であるために、子ども・保護者・地域そして保育者が共生（ともに生きる）・共育（ともに育つ）の精神を醸成できる環境づくりに努めた。

開園後、利用者には選ばれる園として自園の強みを発信し、地域の子育ての拠点として園を開放するとともに法人の特長を生かした多種別横断の相談拠点として関係機関・地域との連携を図りながら取り組みを進めた。

障害児通所事業所との連携や、高齢者施設への交流の実施、職員間の交流にて美術指導や音楽指導を行った。

また、多くの園児の受入れを行うため職員の確保を重点的に行い、より質の高い教育・保育が提供できるよう保育士の専門性の向上に取り組むと同時に、ICT導入による業務の効率化をはかり、職員のモチベーションアップ・処遇改善につなげていった。

【保育理念】

法人理念のもとあらゆるサポートや機会の提供を行い、大人になり社会に出てものごみを持って豊かな心で生き抜く基礎を養う。子どもたちが幸せに過ごせるよう、乳幼児の健全な発達を助長し家庭的な保育を実践する。

【基本方針】

- 1 保育内容と職員の充実で計画定員の早期充足を達成し安定した運営をしていく。
- 2 幼保連携型認定こども園の移行を視野に、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を行う。
- 3 地域教育を重んじ、地域行事や伝統の継承や地域の魅力を楽しめる子どもを育てる。

【年度目標】

- 1 笑顔であいさつ
- 2 利用者や地域の方々とのつながりを大切にし、心を向けて信頼関係を築く。

【事業・運営実績】

- 1 より質の高い教育・保育を実践
 - (ア) 保育所保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していき、乳幼児の理解に基づいた指導計画にあたっては、PDCAサイクルを用いて質の向上を目指した。
 - (イ) 乳幼児が自ら色々な発見をすることのできる環境設定や、継続して遊びを繰り返すことのできる環境づくり、年齢を超えた子ども同士の関わりが自然にできる環境づくりを進

め、発達に即した教育・保育内容の充実を図った。

(ウ) ゆるやかな担当制・異年齢グループ・少人数グループでの保育の実践をとおり一人ひとりの発達に即したよりきめ細やかな保育を行った。

(エ) ICTの活用で保育士の業務省力化を図り、少しでも多く子どもたちの育ちに寄り添える時間をつくった。

2 保育者としての専門性を高める

(ア) 園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行った。

(イ) 自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげた。

(ウ) 共育（ともに育つ）支援を行う。内容としてはホームページ・クラスだより・連絡ノート等を活用し教育・保育内容・子どもの育ちを保護者に分かりやすく発信し、育ちを共有していった。

3 食育の推進

(ア) オープンキッチンを生かした食への興味・関心への取り組みや、管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキング等の体験や、日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れた。

(イ) 保護者にも「食」の大切さを分かりやすく伝えるための献立表の工夫や講座等を実施した。

4 地域における公益的な取組

(ア) 自治会や地域コミュニティセンターと連携して地域行事への参画や地域が活気づく活動の推進に協力した。

(イ) 地域ボランティアの積極的な活用で、園運営への協力と透明性の向上をはかった。

(ウ) 総合相談窓口を設けた。

【実施事業及び定員の状況】

利用定員	105 名						
年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
	9 名	18 名	18 名	20 名	20 名	20 名	105 名
実数	15 名	21 名	19 名	10 名	4 名	6 名	75 名
特別保育	延長保育						
	障がい児保育						

【途中入園、退園児童数の状況】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
0 歳		1		1					2	2	1	1
1 歳									2			
2 歳		2	2						1			1
3 歳		2		1	1						2	
4 歳		1							2			
5 歳								▲1				
総数	51	57	59	61	62	62	62	61	68	70	73	75

【職員数】

	園長	(主任) 保育士 ＜正職員＞	保育士 ＜パート＞	管理栄養士 栄養士	調理師	看護職員	事務員
平成 30 年 4 月 1 日	1 名	13 名	4 名	3 名	1 名	0 名	1 名
平成 30 年 度実数	1 名	16 名	4 名	3 名	1 名	1 名	1 名

※採用人数は、長尾學舎準備職員含む。

平成 30 年度 認定こども園長尾学舎 整備事業報告（事業概要）

施設建設に関する内訳（会計年度は2か年にわたる）

収入の部			
(単位：千円)			
区 分	予算額	決算額	摘 要
補助金（H29 年度事業分）	20,378	20,359	こども園整備該当分 2,526
			保育所等該当分 15,215
			市単独補助該当分 2,618
補助金（H30 年度事業分）	184,535	184,535	こども園整備該当分 21,705
			保育所等該当分 141,324
			市単独補助該当分 21,506
拠点区分間長期借入金収入 （H29 年度事業分）	20,062	20,081	
拠点区分間長期借入金収入 （H30 年度事業分）	179,425	162,865	
合 計	404,400	387,840	
支出の部			
(単位：千円)			
区 分	予算額	決算額	摘 要
施設整備費 （H29 年度事業分）	40,440	40,440	
施設整備費 （H30 年度事業分）	363,960	347,400	
合 計	404,400	387,840	